



委員会活動報告

本年度はコロナ禍のため市内を視察

総務常任委員会

市内の消防力について

10月28日 白岡消防署及び篠津分署

広域化によって、高機能指令システムの整備等、単独では難しいシステム整備とネットワーク構築が可能となった。

大規模な火災事例として下野田地内の火災が挙げられた。現場に最初に到着したのは宮代消防署の消防ポンプ自動車。直近車両がいち早く現場に向かえるのは広域化のメリット。視察中も、篠津分署所属の救急自動車が出勤からの帰路、鷲宮地区で発生した救急出動要請に直近車両として対応したのを目の当たりにし、迅速な協力体制に安心した。またコロ

ナ禍の活動で、防護服などの重装備、苦勞の一端も知った。

市の令和元年中の火災発生件数が18件、救急出動件数は2,317件という状況。消防活動の充実は市にとっても重要課題。

市議会として現場の職員がさらに活動しやすいよう、環境整備に努めなければならない。



文教厚生常任委員会

ごみの減量化の取組について

10月20日 蓮田白岡環境センター

平成12年度に有料指定ごみ袋制度を導入したことで、ごみの量が前年度比18.5%も減少、現在も減少し続けていることは、市民一人ひとりのごみ処理意識の高さがうかがえる。また、ごみ収集車のオルゴールによる収集告知は市民生活の一部となり、市民のごみ減量化意識の醸成につながっている。啓発活動の不断の努力あつての減量化である。

一方、課題も散見された。更なるごみの減量化への取組として、生ごみ等の水切りや紙の資源化、プラスチックの適切な分別等が挙げられており、どれも市民の協力が欠かせない。

市民にどう伝え、一人ひとりの負担をどれだけ減らすことができるかが、更なる減量化へとつながる重要な要素となる。また、経年劣化していく焼却炉の新規整備についても財源や立地はもとより両市民との対話など様々な面での検討や調整を要するものとなる。

将来的に両市にとって納得できるごみ処理施設が整備され、引き続きごみの減量化やリサイクルの推進が図られていくよう望む。



産業建設常任委員会

市の橋りょうについて

10月30日 市会議室、現地視察

市では、これまでも定期点検により橋りょうの維持管理に努めてきているが、これからの安全通行と維持管理コストの縮減を併せ考えると、長寿命化修繕計画による予防保全型の維持管理は必須である。



今後想定される大地震や台風等による洪水等への対策に備えていくためにも、綿密な点検と安全管理を十分に行っていくことを希望する。そ

のためには、専門技術を有する職員の育成が必要である。また、修繕工事での迂回路設置が大変困難な橋りょうも想定される。市内全体の工事対象箇所の長期的な修繕計画の構想も必要である。

白岡宮代線については、一日も早い開通が期待されている。開通予定の表示板の設置や建設済みの橋脚に新たな橋桁を架設するための工夫が必要である。

白岡市橋梁長寿命化修繕計画に基づき、事業費の平準化を図り、国庫補助金等も可能な範囲で最大限活用しながら、安全が保たれる橋りょう維持管理を望む。